



障害者と健常者のつどい

障害児教育雑記帳

ヒロシマで、広大で、 障害児教育を学ぶこと

学校教育学部
障害児教育教室

◆ 金田 鈴江

別れと出会いの季節、春

学校教育学部の一隅に、原爆にも耐え残った図書館（元講堂）と体育館が、痛々しくも堂々と並んで建っている。真っ黒に変色した小屋裏の木組の美しいその体育館で、祝杯をあげて卒業生を送ったのは三月末の粉雪のちらつく日であった。それから二週間後、校庭の巨大な古木の桜花が散り始める中、この東雲キャンパス最後の新入生を迎えた。

研究室の新入メンバーとの初対面。目的意識を持ってそれなりの準備をし、推薦入試の段階から挑む学生もいるが、自分の偏差値がここに入れる程度だったから深く考えないで、という学生もかなりいる。

無理もない。彼らは自己同一性の形成過程の真っ只中だ。学びながら、障害児や家族と触れ合いながら、動機や意欲は創られていくであろう。真剣そうな面持ちで耳を傾けている彼らに、障害児教育への導入を始める。

障害児教育への

オリエンテーション

国連による「障害」の定義では、心身の欠損や不全の状態 'impairment'、行動上に現れ

る機能制限 'disability'、制度や態度や社会生活場面で生じる不利益 'handicap'、に区別されている。障害児教育はこの三層の障害をもつ人々を身体的、精神的、社会的、人格的（価値的）存在として全人的に捉えようとする学問である。

障害児の病理・保健、心理、教育の三本柱がたてられ、医学、心理学、教育学の教官がそれらを担当している。

社会の障害者観

― 特別視の時代から共存の時代へ ―

社会の障害者観は時代によって変わる。異常児、低能児という差別的色合いを含む言葉は過去のものであるが、障害児・者という用語も歴史的所産であり、将来にわたってこれで足りるということはないであろう。

長い間、社会は力ある人のもの、大多数の人のものであり、弱者や少数者は社会にそぐわないとされた。障害をもつ人もマイナスイメージで捉えられ、社会から分離し、特別扱いをする政策がとられてきた。

しかし今世紀半ば、人類に豊かさをもたらすと信じられていた自然科学の発展が、人々の身体を侵し、奇形児を生み、大気を汚し、生態系を乱していることが地球規模で明らかになり、価値の転換が迫られた。興業立国、経済優先から環境や福祉へ眼が向けられるようになった。少数派に対する見方も変わってきた。現代は「共存の時代」と言われる。

かになり、価値の転換が迫られた。興業立国、経済優先から環境や福祉へ眼が向けられるようになった。少数派に対する見方も変わってきた。現代は「共存の時代」と言われる。

ノーマライゼーション

と

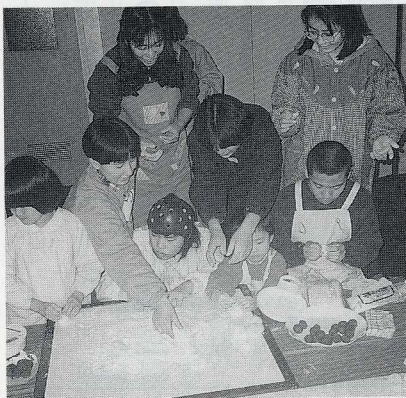
障害をもつ人もできる限り地域社会の中で「ふつう（ノーマル）」に生活するための援助を受ける権利がある、というノーマライゼーションの思想は、知的障害者のために一九五〇年代にデンマークで生まれた。それが身体障害者へ、高齢者へ、ハンディをもつ全ての少数派へと広がった。

ノーマライゼーションを具体化する方策の一つがインテグレーション（場の「統合」）である。福祉政策は隔離から統合へ、収容から在宅へと方向が転換された。

広島県は障害児の

統合率全国一

障害児が健常児と同一の学校で教育を受け、障害ゆえにハンディを受けることのないようできるだけ配慮し、「物」の改善をはかる。



ボランティア活動-障害児ともちつき大会

そうした学校教育における「場の統合」は全国的に推進されている。なかでも広島県は障害児の障害児学校（盲・聾・養護学校）への就学率が四十七道府県中で四十七位、すなわち普通校への統合率が一位なのである。

広大は盲・聾・養護三課程

揃った全国唯一の大学

大学案内や入試要項を読んで、広島大学学校教育学部が盲・聾・養護教員養成課程があることを学生たちは知っている。しかし、あまたある全国の教員養成系大学のうち、三課程が揃っているのは本学だけであることを知っている学生は少ない。

聾課程は本学の他に宮城教育大にあるが、同様に聾課程はない。

ヒロシマで

障害児教育を学ぶこと

かつての軍都広島は原爆による壊滅から、過去の反省を礎に反戦と平和を希求する国際都市ヒロシマとして復興した。共存の時代に、この地で、この大学で、障害児教育を学べることに思いをいたしつつ、充実した学生生活のスタートをきって欲しい、と願うものである。

プロフィール

（かなた・

すずえ）

▽一九七二年

広島大学医学

部卒業



▽広島大学医学部附属病院、国立療養所賀茂病院を経て本学部へ
▽専門は精神医学、障害児臨床